

選考委員賞

緑について

高松中学校 嶋 智瑛理

私達が都会と呼ぶこの東京には、緑が少なすぎる。なぜ少ないのか？考えなくとも分かる。私達人類がより良い環境を求め、土地を求めるあまり、自然をこわし、多くの緑を失ってきたからである。

私達の住んでいる日本にはもちろん、都心とは反対に緑が豊かに広がっている地域もたくさんある。

私は去年の夏、妹と共に祖父母が暮らしている岩手へ行ってきた。岩手にももちろん、東京のように人々が多く集まる開けた場所はいくらかあった。が、移動中の車窓から見る景色は、あきらかに木や草など、緑の方が建物等よりも多く私の目に映り込んできていた。

私は祖父母の家で、その夏の大半を過ごした。一日の間がゆつくりと、おだやかに過ぎて行く日々であった。空は青く、雲は流れ、夕方になると辺りが全て、沈んで行く夕日に当てられ、私の視界の全てが赤く、赤く染まり、虫たちが田畑の上を飛び回っていた。

そんな日々をすごし、私はいくつか感じた事がある。この土地は空気もよく、川も夜空もとても美しいが、美

しい環境のかわりに、祖父母の家の近くには店がない。コンビニも本屋も自動販売機も、いくらばかりか歩かないと、たどりつけないのだ。近くにあるのは田畑ばかり、近所の家も近所とはいえぬ程遠くにあるのだ。

そこで私が思い出したのは東京のことであった。家を出てすぐに自動販売機があり、少し歩くだけでコンビニやその他色々な店があり、何一つ苦労することのない町、困るのは人が多すぎて歩きにくかったり、少し空気が悪いという点である。しかし、そういった事を気にしない人であるならば、きっと東京の方がとても住みやすいのだろう。

私のもう一つ感じたのは、東京ではけっして見る事のない自然が豊かな、おどろくほどに美しい光景の素晴らしさである。

蝉やカブト虫がとまっている木々、彩やかに深々と生いしげる、色とりどりの草花たち、東京にももちろん草花が植えてある花だんや、木々が並んでいる公園などはたくさんあったが、やはり手が加えられてあるものよりも、もともとからその場にある自然の姿の方が、よりいっそう目をみはるほどに美しい。

そんな豊かな自然に囲まれながらすごしている内に、私は小さい時はよく木のぼり等をして遊んでいたことを思いだした。東京のとある公園の夏みかんらしきものが実る木によじのぼり、草のある所で虫をつかまえたり蝉の抜けがらを集めたり、昔の私は今の私よりもとても好奇心に満ちていた。

今おもえば、その好奇心の的となったのは、大体が、木や草等といった私の周りにあつた自然等であつたと思う。

東京の人々は、あまりにも冷めすぎている。外へ出ると言つたら、日焼けするのがイヤだとか、虫が多いから無理だとか。正直いって私は、そこらへんはあんまり気にしない性格なので、そのような事を言っている人を見かけると、「別にそこまで気にしなくとも良いのでは……」と思つてしまふ。

ではなぜ、東京、都心に住んでいる人は、木や森等といった様々な素晴らしい自然に、あまり興味をいだいていないのだろうか？

これは私の勝手な自論であるのだが、緑豊かな土地に住む人達と比べて、私達が木や草、虫などと接するきかいが、あまりにも少ないためなのだと、私は思っている。自然とある程度ふれ合っていた頃の私だつて、今よりもずっと色々な事への関心が大きかったのだから。また、緑の多い土地に住む方々は、あまりささくれていなく、人柄が良い人がたくさんいると、私は思う。

なので、私達はもっと木や自然とふれあうべきなのである。森へ行ったり山をながめたりと、そういう事で、もっと自分の心のゆとりを広げ、様々な事への関心を大事にすることこそが、今の若者達には必要なことなのだと、私は思う。